

令和8年度 総合型選抜（総合Ⅱ） 課題解決型記述問題 出題意図・講評

出題意図

九州工業大学の総合Ⅱにおける「課題解決型記述問題」は、小中学校で学ぶ理数に関するテーマ・課題に対して、これまでに学んだ知識・技能や、探究的な学び等の中で身につけた情報収集・活用スキル等を組み合わせて応用する力を評価する問題である。さらに、問題文の中で求められていることを適切に読み取り、提案する計画等への参加者や対象者に合わせた工夫を考察しながら、他者が読むことを意識した表現力も評価している。

今回は「アメンボ」を題材に出題した。アメンボは、水質階級の指標生物として小中学校等で取り上げられていることから、多くの人が一度は目にしたことのある身近な生物の一つである。問題では文献等をリサーチしながら、①アメンボが水面で生活できる理由、②生活排水が流れ込む環境でアメンボの生息に与える要因、③仮説を設定し、検証するための方針、という3つを評価ポイントとした。また、答案に記載されている参考文献や助言者・使用したツールについては、教科情報や探究活動等で学ぶ情報収集・活用能力や「わからないことに対する学び方」に対する態度などといった主体性等評価の参考としても活用した。

講評

アメンボが水面で生活できる理由については、アメンボの脚の構造に注目した答案が多く見られた。また、生息環境については生活排水に含まれる界面活性剤を挙げる答案が多く、提示された現象については概ね理解できていた。その上で、仮説とそれに対する検証方法の部分が評価の差になった。例えば、仮説検証に用いたモデルの限界まで言及したり、複数の文献を参考にして界面活性剤の濃度等の基準を決定したりと、高い情報収集・活用能力とそれに伴う思考力・判断力がうかがえる答案もみられた。一方で、仮説を検証できる方法となっていなかったり、定量的観点が抜けていたりする答案も散見された。

総合Ⅱの答案作成では、調査したり、他者に助言を求めたりして構わない。実際に観察・実験したり、参考になる論文や書籍を探して読むなどしたりして、自身の理解を深める工夫したことがうかがえるものもあった。

面接では、問題文や答案の内容をもとに、現象の理解、検証方法等について、特に工夫したところ、情報源・助言者を選んだ根拠などについて質疑応答を行った。出題内容を理解し、調べ、考えたことをわかりやすく記載した受験生は、おおむね面接員との質疑を論理的に展開することができていた。

全体的には、探究的な学びだけでなく、論理国語や情報Ⅰなどで文献調査や論理的な表現について学んでいることもあり、自身の理解を深めようとする態度や適切に図表などを活用する表現スキルが養われつつある様子が見られた。一方、事前提出であるにも関わらず、残念ながら用語の誤用や誤字と思われるものや、参考文献などの記載が不適切であったり、問題文の指示に従っていなかったりする答案が散見された。